

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	QZ2 BACK DRAFT	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.550	△RG	0.043	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：QZ2 BACK DRAFT

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

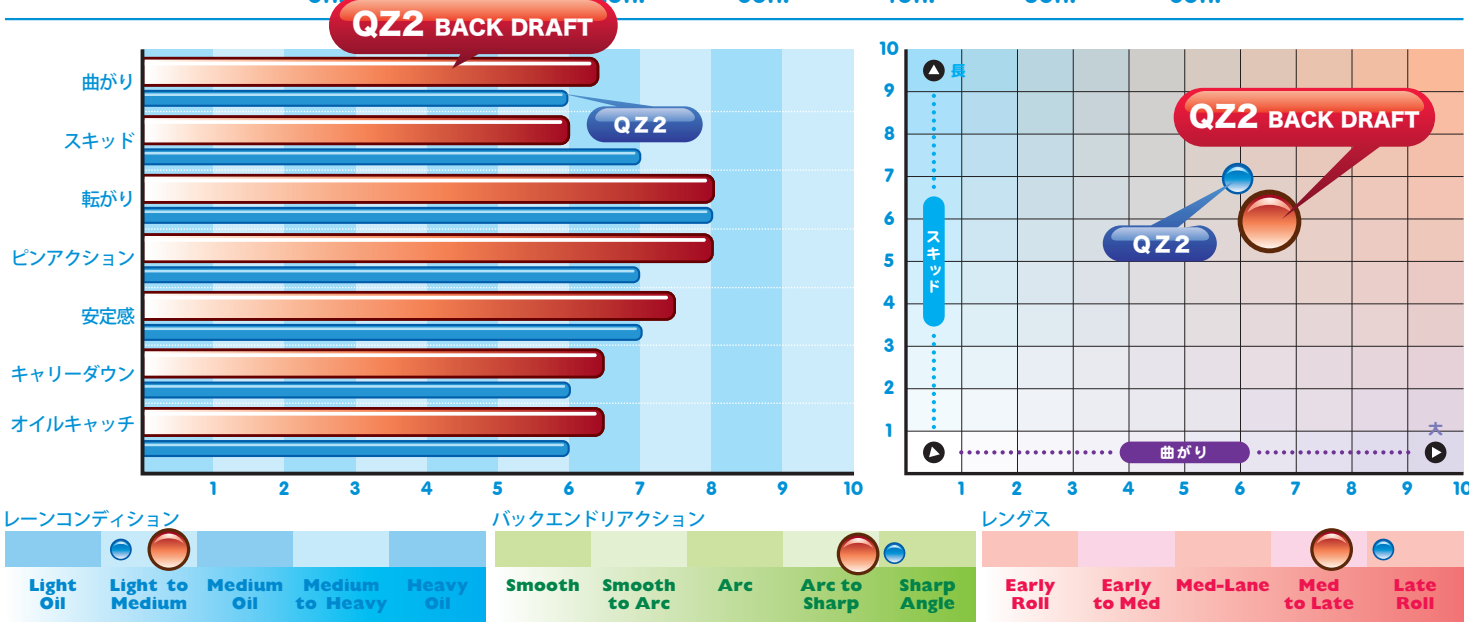
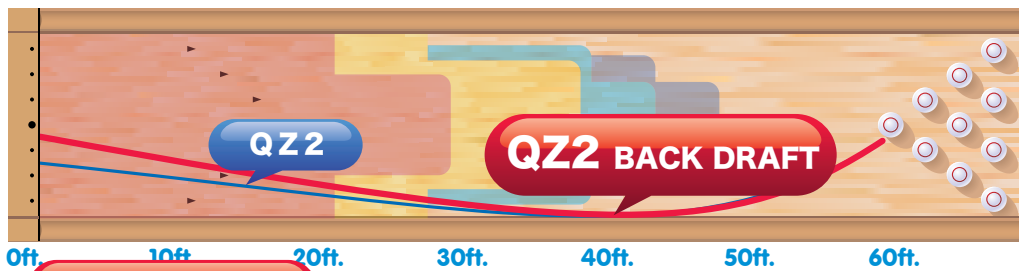
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：QZ2

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

MOTIVが持つ潜在能力。ABS社が軸としているコロンビア・トラック社両2代メーカーに勝るとも劣らぬパフォーマンス。現在国内外におけるシェア・及び実績でMOTIV社の製品は一步遅れを取っているものの、カバーストックの質・コアテクノロジーの高さは多くの「MOTIV信者」を発生させ、私のセンターでもMOTIVのボールだけを追いかけるユーザーも少なくありません。今回リリースするQZ2 Backdraftは、走りと先での暴れるバックエンドリアクションをもつオリジナルのQZ2 (ブルー/ブラック)のReactive Hybrid製品です。

コアデザイン・数値は以前発売された”QZ1” ”QZ2”と変わりはありませんが、パフォーマンスの大半を決定するカバーストック素材にMOTIV社独自のReactive Hybridを採用したことは見逃せません。MOTIVator-Z”Reactive Hybrid”はMOTIVator-Z Reactiveをベースに摩擦力を強化するべく新たな添加物を混入し、リアクション特性でもMOTIVator-Zよりもオイルに対しての強さを感じ、ミッドエリアでの動きの安定化を図っています。このボールを持つことでQZ2でやや走り過ぎてしまったり、暴れてしまう印象をお持ちの方には有効にアジャストしやすい幅のボールとなることでしょう。

MOTIV社のボックス仕上げの特徴としてGelポリッシュを採用していますが、さまざまな加工のテストで大幅にパフォーマンスが変わる兆候があります。どのボールでも同様のことは言えますが、箱出しで投球しイメージが湧かない場合、ファクトリーフィニッシュポリッシュ液で軽くポリッシュするか、箱出し同等のアブラロンで加工後、同液でポリッシュを施すと違ったイメージが得られると思います。Gelポリッシュ仕上げとの相性もありますので、スタイルにあった表面加工を選択していただけたらと思います。

特記事項

MOTIV初であるReactive Hybridを採用。MOTIVator-Zよりもやや早めの曲がり始めを感じ、ミッドエリアでの安定感を強化しています。